

令和8年度 第1回倉敷教育センター運営委員会 会議録

1 日 時 令和8年7月10日（金） 14:00～16:00

2 場 所 倉敷教育センター研修室

3 出席者

・委員（12名）

委員長 國府 おもと

副委員長 有森 真理

委 員 芦田 忠大

伊住 継行（欠席） 門田 昌子（欠席）

小久保 圭一郎（欠席） 徳山 智夫 中村 かほり

長谷川 さおり 藤田 哲彦 北條 智美

丸野 善嗣（欠席） 三谷 潤二郎 山田 由美

横山 武典（欠席）

・事務局（8名）

市教委指導課 課 長 岩成 浩

教育センター 館 長 村中 千春

指導主幹 段堂 博紀

指導主任 岡田 三枝

辻原 綾子

鳥越 威志

浅野 隆文

岡本 晃典

4 説明及び協議

（1）研修講座について

○事務局より説明

○協 議

委 員 たくさんの種類の研修をして、教員の資質向上に努めていることが分かった。昨今、学校の中だけでは解決しないということが増えていると思うが、生涯学習部門との連携を入れていただきありがたい。研修内容が、学校教育の中だけで収まっている印象を受けた。地域学校協働活動の発表等を入れることも検討してはどうかと思った。

事務局 関係機関との連携について、外部の方を講師に招いての研修も行っている。中堅教諭資質向上研修では、民間を対象に研修をされている方に講師をしていただいている。また、16年目研修では、弁護士の方や地域の施設の方に話をしていただき、いろいろな視点から学校教育を考える機会としている。県総合教育センターとも連携しながら、さらに充実させていきたい。

委 員 今年度、本校でも初任者研修等に参加している教員がいて、感想を聞いてみた。初任者は「単元を見通した授業づくりが勉強になった。」「同じ学年や担当の先生と悩みを共有できて良かった。」と

言っていた。また、特別支援教育の研修に参加した教員は「年度始めの研修を受講することで、特別支援教育のイメージをもつことができた。」とも言っていた。

倉敷教育センター研修室の掲示物の意図と研修の振り返りの方向性を伺いたい。

事務局 掲示物については、今年度、力を入れている取組の一つである。倉敷教育センターの取組を周知するために「見せる掲示」の工夫をしているので、学校でも宣伝していただけるとありがたい。

研修で得た学びを実践につなげるために、研修の振り返りも大事にしている。自身の学びをしっかりと振り返り、その場で考えを出して書いてもらいたいという思いもあるので、紙媒体で振り返りをしている研修もある。全国教員研修プラットフォーム「Plant」を用いて振り返りを行うこともできる。会場のインターネットの接続環境等が関わるため、振り返り方法を模索している最中である。今後、良い報告ができればと思っている。

委員 倉敷教育センターの良いところは、受講者との距離が近いところだと思う。紙媒体での振り返りのメリットもある。時代や実態に合わせてアップデートしていただきたい。

委員 希望研修に教職員が参加しやすいような環境をつくることに苦労しており、課題に感じている。倉敷教育センターの「所報」等を活用して研修の内容を知り、研修に参加する教職員に声をかけ、本人へのやる気につなげたい。

事務局 遠隔やeラーニングも含めた研修のあり方を今後も倉敷教育センターで話題にしていきたい。

委員 いろいろな仕掛けがあり、研修が変わってきていると思う。教師の学びと子どもの学びが相似形ということをよく意識し、研修で学びを獲得した教師が子どもに対して学びのサイクルを回していくのだと思った。

研修の振り返りについては、内容をどう引き上げていくかが課題である。Google スプレッドシートで共有ができると質が上がるのではないかなと思うので、検討してほしい。また、研修を受ける初任期教員の意識はどうかをお聞きしたい。

事務局 Google スプレッドシートについては、研修の中でどのように活用できるかを検討していきたい。受講の様子は、意欲的な姿が増えている実感がある。また、自分の言葉で思いを語ることができる教職員が増えている。研修全体の雰囲気も良い。

(2) 適応指導について

○事務局より説明

○協議

委員 倉敷ふれあい教室に参加している児童生徒に、自己肯定感の向上や自信を取り戻すような働きかけを行っているという話が心に残った。どのような児童生徒が多いのか伺いたい。

事務局 発達障がいの診断がある児童生徒の利用や相談もある。生活リズム

の乱れ等のケースもある。

委員 完全不登校だった生徒が、就職して、今では毎日事業所に通うことができている。自分がここで仕事をすれば給料がもらえるという充実感を得て、今では欠勤なしである。いろいろな状態の児童生徒がいるが、倉敷ふれあい教室で職員が献身的に関わる中で何か将来につながるのではないかと、夢や希望をもちながら説明を聞いたところである。

委員 倉敷市内には、4校の定時制高等学校がある。本校にも倉敷ふれあい教室出身の生徒がいた。4年間皆勤で、自信をつけて企業に就職した。経験をするとどんどん変わってくると感じている。本校の教職員も生徒に寄り添いながら、どうやって力を付けていくかを考えて取り組んでいる。不登校の生徒にも本校に足を運んで見学してもらい、受験を考えてもらいたい。倉敷ふれあい教室の取組が、ますます活発になってほしいと思っている。

事務局 昨年度から倉敷教育センター職員向けに学校の取組等の紹介をしていただいている。倉敷ふれあい教室の職員は、生徒からの相談先になっていることが多い。適切な形で情報をいただけることをありがたいと思っている。

委員 倉敷ふれあい教室で得た情報を、今後も学校に届けていただけると大変ありがたい。

委員 生涯学習課の事業で「さわやかデー」というものがある。学校に行きづらかったり、教室に入りづらかったりする子どもたちを対象とした事業である。他にも様々な機関との連携の可能性を検討していただきたい。

オンライン指導の「卒業を祝う式」がとても良いと思った。学校生活で経験できていないこともあると思うが、「卒業を祝う式」という形で節目の式を経験できることが良いと思う。

事務局 「卒業を祝う式」は、試行錯誤した結果の取組である。実態として難しいと思うこともあったが、児童生徒が自分の言葉で挨拶文を書いて発表したのも、参加者の心を打つものがあった。学校の卒業式よりも前に行うことも学校へつなげるための支援の一つである。今年度も計画している。

(3) 教育相談・教育情報・施設利用について

○事務局より説明

○協議

委員 幼稚園では、子どもが幼いということで、まだ関係機関に相談するほどはないと思われる保護者の方が多いが、倉敷教育センターでの相談には、臨床心理士の先生もいることをしっかりと伝えていきたいと思っている。園内の掲示板には、いつもちらし等を掲示している。

委員 保護者や支援機関から、どこかにつながるところはないかという相談がある。いろいろなちらしを探して、相談に来られた方にちらしを渡しているが、説明を聞いて倉敷教育センターのことも提案で

きると思った。今後も連携を取っていきたい。

事務局 「とらいあんぐる」、「かけはし」、「教育相談」のちらしを関係機関に送付している。倉敷教育センターでも、関係機関のことについて学び、電話での相談の中で紹介できるようにしていく必要があると感じている。